



バスラ日誌（6月30日）-157号-

1 今日、6月30日。明日からいよいよ7月である。昨日今月7回目のIDF攻撃があり、我々がここに来てからだけでも21回目、38発目であった。これまでのIDF攻撃の至近弾は、約200mの地点に4回程度着弾したが、爆発音で一番すごかったのは、2月11日夜、同日2回目の攻撃で、確か4発を撃ち込まれた時であった。すぐ近くで爆発しているだろうと思われた。（実際には600m～800m程離れていたが。）こちらに来て初めて受けた攻撃であったので、皆の無事を確認する手段を確立しておらず、離れた部屋の間を砲弾が落ちていく間に2往復ほどして、最後の4発目は、部屋のドアの外で聞き、『今のは凄かったね。』と話したことを覚えている。その時の感想は「誰かが屋根の上に乗ったかと思った。」であった。それからは、無用の動きを避けるため、全員モトローラーを携行し、警報発令時等事案発生時にはスイッチを入れることにして、すぐに連絡がとれるようにした。売店に寄ったためにタイミングがってしまった車両移動間に受けた近弾は、音も激しかったが、弾着時の煙を確認して、と『今のは近かったね。』と話した。司令部はコンクリートの建物だが、居住区は耐弾化されておらず、あとは運次第と思って過ごしてきた。日本では考えられない生活だったけれども、住めば都で楽しく過ごせた。あと数週間、誰も怪我をしないように、また、我々の撤収後も誰にも被害がでないようにと願っている。

2 日本隊の撤収状況、撤収に関わる様々な業務の進捗状況等については、逐次師団の関係部署に通報し、要すれば、直接幕僚長あるいは師団長（MA経由）にも報告している。もちろん師団からも日本隊が必要とする情報について、情報の提供を受けサマワに通報している。面白いことに、1週間前までは、師団から日本隊への情報提供が重要性を持っていたように思うが、逐次現地の直接交渉が重要になると、日本隊からの情報を師団が待つ状況も生じてきた。これまで多くの情報を頂いてきた師団に対し、少しでも恩返しができるように、迅速に、正確に伝えたいと思っている。師団への情報提供についてもお忘れ無く。

3 本日快晴。バスラ4名、極めて健康。